

作成日：平成 26 年 9 月 30 日

報告者：福島っこ元気村キャンプ実行委員会 委員長 堀内拓馬

サルモネラ感染症発生に関する報告

以下、本年 7 月 28 日から 8 月 3 日にかけて行われた、福島っこ元気村キャンプにて発生したサルモネラ感染症につき報告いたします。

発生前（体調の変化に気づいてから帰宅まで）

8 月 2 日（キャンプ 6 日目）

- 18 時頃 宿泊施設の野外にて調理した夕食の焼きそばを食べる。
- 19 時半頃 部屋で寝ていたので声がけ。「お腹が痛いか？」との問いに首を振り、「眠い？」とたずねるとなずいた為、そのまま寝かせて様子を見る。手でオデコの熱を確認した。特に熱くなかった。
- 20 時頃 上記と同じ声がけと、返答を繰り返す。

8 月 3 日（キャンプ最終日）

- 7 時頃 布団の横に吐瀉物を発見。嘔吐したところを見たわけではないため、本人に自分の物であるか確認したところ認めた。内容物から消化不良のように見受けられた。
また下痢をしていて、下腹部に鈍痛があるとの自己申告あり。
スタッフ用の離れへ移して検温したところ熱があったのでおでこを冷やす。38.4 分程。
朝食は食べられなかったため、水分を補給（ポカリスエット）。
- 9 時頃 平熱近くまで下がったため、バスに乗せる判断をする。
判断材料：
・嘔吐がとまって、1 回だけであったこと。
・寝て起きたことで、熱が下がり、目つきがよくなったこと。
→風邪による下痢、腹痛、発熱と判断。落ち着いてきたため、バスに乗せた。
- 9 時半頃 集合写真を撮る際に 2 度ほどトイレに行く。その際にも下痢との申告あり。
- 10 時頃 バスに乗せる準備として下痢止めを服用させる。
- 10 時半頃 バス乗車
- 12 時頃 停車した上里 SA まで睡眠。トイレ休憩、昼食、お土産購入の為、1 時間半ほど停車。
トイレに 20 分ほどこもる。昼食はとらず、アクエリアスを飲む。上里 SA にて回復した様子。
- 15 時半頃 郡山カルチャーパークにてバス停車。その際にもトイレへ行く。
- 16 時半頃 福島駅到着。集合写真を撮り、解散。この時に保護者の方へ体調を伝えられず。
- 17 時頃 スタッフ新幹線乗車。迎えに現れた保護者の方へ男児の体調を伝え忘れていたことに気づく。
送りに行ったスタッフ 3 人で話したが、体調について大丈夫だと判断をしたと勘違いする。
そのため保護者の方へ連絡せず。

発生から終息まで

8月4日

発 生：キャンプが終了した翌日、参加者の子供（小5男児）が食中毒の疑いで福島 of 病院に入院したと、当該男児の保護者知人から連絡を受ける。

食中毒の疑いがあったため、参加者全員の健康状態を確認。具合が悪い場合、病院にかかってほしい旨を連絡。

状 況：他の参加者 23 名の家庭に帰宅後の子供たちの状況を電話で確認。以下の状況であった。

高熱：4 人（後に夏風邪・風邪と診断）

微熱：1 人（自宅療養）

お腹が痛い・下痢：2 人（後に特に問題なしとの診断・自宅療養）

8月5日

千代田区保険所から、福島っこ元気村キャンプでサルモネラ菌の食中毒の疑いのある子供がいると連絡を受ける。食中毒の疑いがある場合、キャンプ期間中に摂取した食事のメニュー・レシピと、参加した子供たち、スタッフのリストの提出を任意でお願いすることになりますと伝えられる。

8月6日

- ・千代田区保険所へキャンプ期間中のメニュー・レシピのリストを提出。
- ・千代田区保健所より当該の参加者の便からサルモネラ菌が検出された旨、連絡を受ける。
- ・参加者各家庭へサルモネラ菌検出のこと、体調が悪い場合に病院にかかってほしいこと、福島県保険所からの聞き取り調査に協力して欲しいことをメールで連絡。
- ・運営スタッフ、ボランティアスタッフへも保健所からの聞き取り調査に協力して欲しい旨、連絡。

8月7日

参加者各家庭の連絡先リストを千代田区保健所へ提出。

8月9～10日

福島・郡山へ、入院している、もしくは高熱を出した子供たちのお見舞いと、キャンプでの経過説明のため訪問。

8月11日

運営スタッフ、ボランティアスタッフの連絡先リストを千代田区保健所へ提出。

8月14日

千代田区保健所より詳細は後日連絡するが今回の件は「食中毒とは断定しなかった。感染症のため、保健所ではこれ以上調査をしない。」と連絡がある。

8月16日

当該男児の回復、退院を確認。

8月17日

本件に関する終息を参加者、運営関係者へ宣言。